



# 学校だより

《学校教育目標》 (知) 主体的に学ぶ生徒  
(徳) 正しく判断できる生徒  
(体) 心身を鍛える生徒  
<No. 13> 平成29年3月1日

## さいたま市立白幡中学校

〒336-0022 さいたま市南区白幡 2-18-13

TEL048-861-3203 (学校)  
866-5789 (相談室)

<http://shirahata-j.saitama-city.ed.jp>

### 平常心をもって一切のことをなす人、これを名人というなり

校長 富田 聡

今年の冬は寒暖の差が激しく、北日本や日本海側などは例年より特に厳しい寒さで、西日本では記録的な大雪が降り生活するのに大変な地域もありました。埼玉県では、ほとんど雨が降らず乾燥注意報が連日出ている状況です。平均気温を下回る日々があるなど、春の訪れが待ち遠しい思いがありますが、いよいよ今年度最後の月を迎えることとなりました。皆様にとってこの一年はどんな年だったのでしょうか。三月末まではまだありますが、本校の教育活動に対し皆さまのご理解・ご協力による大きな支えによりまして、おかげさまで何とか無事終わろうとしていることに感謝申し上げます。

さて、話は変わりますが、先月末に行いました2年生の舘岩自然の教室も無事終了いたしました。天候にも恵まれ、3日間生徒たちはスキー実習に集中し、見違えるほどスキーの技術が向上しました。また、寝食を共にすることで、様々な場面で相手を思いやる微笑ましい行動が見られ、より深い交流が図られたと思っています。活動を通して、生徒同士、教師と生徒等の絆が更に強くなったと感じています。2年生が、このような感動的な経験を通して成長し、来年度には最上級生として自覚と責任をもち、学校の推進役としてリーダーシップを発揮してくれることを期待しています。

話は本題に入りますが、表題に掲げた「平常心をもって一切のことをなす人、これを名人というなり。」この言葉は、江戸時代の剣士であり、将軍家兵法指南役であった柳生宗矩の「兵法家伝書」にある言葉です。柳生宗矩は、かの有名な柳生十兵衛の父であり、二代将軍秀忠、三代将軍家光に剣術を指南するなど、将軍家御流儀としての柳生新陰流の地位を確立させた剣術家であります。この言葉の意味は、「本番になると日頃の力が発揮できないことがよくあります。本番に普段通り力を発揮するのはなかなか難しいことで、どんな状況であれ普段通りのことができる人は名人と呼ぶのにふさわしいくらいの力が備わっている。」と言う意味です。本番に力を発揮するためには、平常心を保つ必要があります。しかし、平常心を保つことは、容易なことではありません。平常心を保つ為には、何といたっても日頃の練習や継続的な取り組みが大切です。身体に覚え込ませるぐらい、何度も、何度も繰り返し練習して、はじめて本番でも平常心が保つことが出来るようになると思います。また、一説にはこの言葉の意味を、「平常心をもつての「もつて」を、持ってと解釈して、自分を見失うことなく、他人に流されないで己の信念を持って、すべてのことをこなせる人が名人である。」と解釈する説もあります。どちらにせよ、何故この「平常心をもって一切のことをなす人、これを名人というなり。」という言葉を取り上げたかという、3月2日に実施される県公立入試に向け、3年生に自信をもって受検してもらいたかったからです。平常心を保つことは、並大抵なことではありません。しかし、今まで日々努力して積み上げてきた実績は、名人にふさわしい取り組みだと思しますので、自信をもって普段通りに平常心で本番に向かってもらいたいと思います。

また、禅の言葉に「莫妄想 (まくもうぞう)」という言葉があります。様々な欲望、未来への不安や過去への執着など、心を曇らせる最大の原因が妄想です。それをくよくよ考えるなどというのが、「莫妄想」です。過去や未来を思い悩まず、「莫妄想」の考えで、今現在のことに集中し、様々なプレッシャーがあるとは思いますが、しっかりと努力し積み上げてきた実績を自信に変えて取り組んで欲しいと思っています。

3年生の受検生の皆さんを含め本校の生徒が、最後のまとめとして様々なことに向き合う時に、自信を胸に、自分を見失うことなく、平常心をもって取り組んで、良い結果が出ることを期待しています。頑張ってください。